

都道府県名：福岡県 団体名：むなかた「水と緑の会」

地域

宗像市は福岡市と北九州市の両政令指定都市の中間に位置し、北を除く3方向を山に囲まれ、玄界灘に世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の主要な構成資産がある沖ノ島、大島を含め、地島、勝島の4つの島を有しています。また、市の中心部には、水源でもある釣川が流れ、玄界灘に注いでいます。

恵まれた地理的条件、白砂青松百選のさつき松原などの豊かな自然、宗像大社などの貴重な歴史・文化遺産に加え、市内に2つの大学があり、住宅都市、文化・学術都市として発展してきました。

経緯

むなかた「水と緑の会」は、釣川の再生・復興を目的とした市民活動団体で平成3年に設立されました。釣川の清掃活動に取り組む他、現在、団体には、環境教育活動を実施する「教育部会」、廃油石鹼を作成して使用拡大を目指す「石けん部会」、蛍の幼虫の飼育や放流に取り組む「ホタル部会」、街角の花壇を整備などを通じ緑の保全に取り組む「花と緑部会」、アサギマダラの中継地保全などに取り組む「調査研究部会」、ホームページなどで会の活動を発信する「広報部会」の6つの部会があり、環境分野での教育・保全・啓発活動を行っています。

功績内容

釣川流域の清掃活動「釣川クリーン作戦」を団体設立当初から宗像市とともに主催し、毎年約2,000人が参加しています。更にさつき松原の海岸清掃「ラブアース・クリーンアップ」を市民や企業に呼び掛け、平成4年度から継続して実施しています。

また、毎年小学4年生を対象にした「水辺教室」を開催。宗像市の水源である釣川の源流から河口までをたどり、水をテーマに環境保全の大切さを教えています。

小学4年生対象の水辺教室



釣川源流にて



川の生き物調査



海岸でのごみ拾い

釣川クリーン作戦、ラブアース・クリーンアップ

